2023　年度　授業計画（シラバス）

学　　科	鍼灸スポーツ学科		科　目　区　分	専門分野	授業の方法	実習
科　目　名	鍼灸臨床実技		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60　(2)　時間(単位)
対 象 学 年	3年		学期及び曜時限	通年　火曜1限	教室名	5階実技室
担 当 教 員	木村　辰典	実務経験とその関連資格				

《授業科目における学習内容》

臨床において、安全かつ効果的に施灸する技術を身につけること。
また、経絡切診をスムーズに行い、反応点を捉える手の感覚を養うこと。

《成績評価の方法と基準》

期末試験にて実技試験を行う。（80％）
授業への取り組み方：平常評価（20％）

《使用教材（教科書）及び参考図書》

参考図書：温灸読本（医道の日本）、鍼灸真髄（医道の日本）、十四経発揮（医道の日本）ほか

《授業外における学習方法》

この授業は、経穴の反応を探る手、お灸をリズムよく捻る手、これを身につけることが最大の目的です。
そのため、授業外でも艾を捻り、体表観察の練習を日々心がけてください。

《履修に当たっての留意点》

近年、他の医療職の方へ鍼灸治療について説明する機会が増えています。自分だけがわかる治療ではなく、常に他の人たちにも理解できる治療をこころがけましょう。切診（体表観察）はその基本となります。

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	米粒大・半米粒大の形を捻り分ける。		もぐさを捻る練習をしておく
		各コマにおける授業予定	・臨床で必要な施灸技術についての説明 ・臨床での灸の活かし方について説明 ・板上で施灸、艾炷のチェック		
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	米粒大・半米粒大の形を捻り分ける。施灸リズムを身につける。		捻り手を止めずに動かす練習をしておく
		各コマにおける授業予定	・人への施灸リズムのデモ ・板上リズム施灸10秒1壮、艾炷チェック ・板上リズム施灸8秒1壮、艾炷チェック		
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	米粒大・半米粒大の形を捻り分ける。施灸リズムを身につける。		捻り手を止めずに動かす練習をしておく
		各コマにおける授業予定	・人への施灸リズムのデモ ・板上リズム施灸10秒1壮、艾炷チェック ・板上リズム施灸8秒1壮、艾炷チェック		
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	人体へリズムよく、刺激量を調節しながら施灸できる。		自分の手足の経穴に8分灸の練習
		各コマにおける授業予定	・板上施灸ウォーミングアップ ・自分の手足へ8分灸で据える（つまみ消し・押し消し） ・ペアで相手の手足に7～8分灸を据える（つまみ消し・押し消し）		
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	人体へリズムよく、刺激量を調節しながら施灸できる。		自分の手足の経穴に8分灸の練習
		各コマにおける授業予定	・板上施灸ウォーミングアップ ・自分の手足へ8分灸で据える（つまみ消し・押し消し） ・ペアで相手の手足に7～8分灸を据える（つまみ消し・押し消し）		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	肺、大腸経、前腕の経穴切診と反応点への施灸ができる		肺、大腸経の経絡流注の復習
		各コマにおける授業予定	・板上ウォーミングアップ ・経絡切診のデモ ・ペアを変えながら、肺、大腸経の切診と反応点への施灸		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	心包、三焦経、前腕の経穴切診と反応点への施灸ができる		心包、三焦経の経絡流注の復習
		各コマにおける授業予定	・板上ウォーミングアップ ・経絡切診のデモ ・ペアを変えながら、心包、三焦経の切診と反応点への施灸		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	心、小腸経、前腕の経穴切診と反応点への施灸ができる		心、小腸経の経絡流注の復習
		各コマにおける授業予定	・板上ウォーミングアップ ・経絡切診のデモ ・ペアを変えながら、心、小腸経の切診と反応点への施灸		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	脾、胃経、下腿の経穴切診と反応点への施灸ができる		脾、胃経の経絡流注の復習
		各コマにおける授業予定	・板上ウォーミングアップ ・経絡切診のデモ ・ペアを変えながら、脾、胃経の切診と反応点への施灸		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	肝、胆経、下腿の経穴切診と反応点への施灸ができる		肝、胆経の経絡流注の復習
		各コマにおける授業予定	・経絡切診のデモ ・ペアを変えながら、肝、胆経の切診と反応点への施灸		
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標	腎、膀胱経、下腿の経穴切診と反応点への施灸ができる		腎、膀胱経の経絡流注の復習
		各コマにおける授業予定	・経絡切診のデモ ・ペアを変えながら、腎、膀胱経の切診と反応点への施灸		
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標	経絡切診を応用した、腰部運動障害に対する施灸ができる		腰の動きについて復習
		各コマにおける授業予定	・腰の運動障害に好発する反応点の触れ方、切診のポイントを説明 ・ペアを変えながら、膝周囲の切診と施灸		
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標	経絡切診を応用した、膝関節運動障害に対する施灸ができる		膝関節の動きについて復習
		各コマにおける授業予定	・膝の運動障害に好発する反応点の触れ方、切診のポイントを説明 ・ペアを変えながら、膝周囲の切診と施灸		
第14回	実習形式	授業を通じての到達目標	自宅施灸で使える様々な温灸について体験し、用途に応じた温灸を選択できるようになる。		温灸の種類について復習
		各コマにおける授業予定	・スモークレス、アロマ、弱刺激、強刺激など、色んな種類の温灸を、自分やペアに据える。部位による刺激感覚の違いも知る。		
第15回		授業を通じての到達目標	前期試験		
		各コマにおける授業予定			

2023　年度　授業計画（シラバス）

学　　科	鍼灸スポーツ学科		科　目　区　分	専門分野	授業の方法	実習
科　目　名	鍼灸臨床実技		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60　(2)　時間(単位)
対 象 学 年	3年		学期及び曜時限	通年　火曜1限	教室名	5階実技室
担 当 教 員	木村　辰典	実務経験とその関連資格				

《授業科目における学習内容》

臨床において、安全かつ効果的に施灸する技術を身につけること。
また、経絡切診をスムーズに行い、反応点を捉える手の感覚を養うこと。

《成績評価の方法と基準》

期末試験にて実技試験を行う。（80％）
授業への取り組み方：平常評価（20％）

《使用教材（教科書）及び参考図書》

参考図書：温灸読本（医道の日本）、鍼灸真髄（医道の日本）、十四経発揮（医道の日本）ほか

《授業外における学習方法》

この授業は、経穴の反応を探る手、お灸をリズムよく捻る手、これを身につけることが最大の目的です。
そのため、授業外でも艾を捻り、体表観察の練習を日々心がけてください。

《履修に当たっての留意点》

近年、他の医療職の方へ鍼灸治療について説明する機会が増えています。自分だけがわかる治療ではなく、常に他の人たちにも理解できる治療をこころがけましょう。切診（体表観察）はその基本となります。

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第16回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本の2大灸法、沢田流と深谷灸法の違いを理解し、説明できる	配布プリント	沢田流と深谷灸について自分で関連書籍を読んでおく
		各コマにおける授業予定	・沢田流の基礎 ・深谷灸の基礎 両者の共通点と相違点を説明		
第17回	実習形式	授業を通じての到達目標	頭部・耳周囲などの経穴へ安全に施灸できる		頭部経穴の復習
		各コマにおける授業予定	・頭部・耳周囲などの経穴へ施灸デモ ・ペアを変えながら施灸 ・のぼせ（灸あたり）が出た時の対処法の説明		
第18回	講義形式	授業を通じての到達目標	婦人科疾患に対して、東洋医学的に考え、治療を組み立てることができる	配布プリント	性周期について復習
		各コマにおける授業予定	・性周期について、西洋医学と東洋医学の考え方を説明 ・婦人科疾患の時に反応が出やすいポイントを学ぶ ・問診の練習を行う		
第19回	実習形式	授業を通じての到達目標	婦人科疾患に対して、東洋医学的に考え、治療を組み立てることができる		配布プリントの復習
		各コマにおける授業予定	・問診の練習を行う ・切診し反応点に施灸		
第20回	実習形式	授業を通じての到達目標	冷え症や風邪に対して、東洋医学的に考え、治療を組み立てることができる		冷え症について自分なりに考察しておく
		各コマにおける授業予定	・冷えの反応が出やすい経穴を学ぶ ・風邪の反応が出やすい経穴を学ぶ ・ペアで切診し反応点に施灸		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	実習形式	授業を通じての到達目標	逆子の灸について、リスクを理解し、適応時期に安全にお灸できる		逆子で用いられる経穴について調べておく
		各コマにおける授業予定	・逆子治療で用いられる経穴を学ぶ ・具体的な施灸量、治療間隔を学ぶ ・リスクのある患者さんを問診で判断する ・ペアで据える		
第22回	実習形式	授業を通じての到達目標	自宅施灸の指導と灸点を正しくつけることができる		自宅施灸の意義を考える
		各コマにおける授業予定	・自宅施灸の意義を考える ・指導の際に気をつけるポイントを学ぶ ・ペアで灸点を付けて、指導の練習を行う		
第23回	実習形式	授業を通じての到達目標	沢田流腹診、背候診について理解し行うことができる	配布プリント	東洋医学的な腹診と背候診の復習
		各コマにおける授業予定	・沢田流腹診の特徴を学ぶ ・沢田流背候診の特徴を学ぶ ・ペアで実習する		
第24回	実習形式	授業を通じての到達目標	腹診を行い、反応点に安全に施灸できる		腹部への施灸練習
		各コマにおける授業予定	・ペアで腹診を行い、反応点に施灸		
第25回	実習形式	授業を通じての到達目標	腹診を行い、反応点に安全に施灸できる		腹部への施灸練習
		各コマにおける授業予定	・ペアで腹診を行い、反応点に施灸		
第26回	実習形式	授業を通じての到達目標	背候診を行い、反応点に安全に施灸できる		背部への施灸練習
		各コマにおける授業予定	・ペアで背候診を行い、反応点に施灸		
第27回	実習形式	授業を通じての到達目標	背候診を行い、反応点に安全に施灸できる		背部への施灸練習
		各コマにおける授業予定	・ペアで背候診を行い、反応点に施灸		
第28回	実習形式	授業を通じての到達目標	手足切診、腹診、背候診を行い、反応点から効果的に配穴し、安全に施灸できる		全身の切診と施灸練習
		各コマにおける授業予定	・ペアで手足切診、背候診を行い、相手の刺激量を考慮し配穴して、総合的に治療する		
第29回	実習形式	授業を通じての到達目標	手足切診、腹診、背候診を行い、反応点から効果的に配穴し、安全に施灸できる		全身の切診と施灸練習
		各コマにおける授業予定	・ペアで手足切診、背候診を行い、相手の刺激量を考慮し配穴して、総合的に治療する		
第30回	実習形式	授業を通じての到達目標	後期試験		
		各コマにおける授業予定			